



社会教育便り

幡多地区社会教育連絡協議会

第39回全国公民館研究集会高知県大会

平成29年10月19日(木)～20(金)に高知県立県民文化ホールで「第39回全国公民館研究集会 高知県大会」が開催されました。2日目の第2分科会では、「子どもの体験」をテーマに「いきいき子ども教室～人と人の関わりを通して～」と題して、土佐清水市立中央公民館 倉本和典 館長と放課後子ども教室 吉田七生 教育活動推進員が発表されました。

実践発表

発表の内容は以下のとおりです。

- 平成20年度より中央公民館・市民図書館・体育館・放課後教室や児童クラブなどが連携して「子どもネットワークしみず」という組織をつくり、土佐清水市の全ての子どもを対象として安心・安全な子どもの居場所を設け、わくわく文化教室(図書館)、のびのびスポーツ教室(体育館)、いきいき体験教室(中央公民館)等による勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流の機会を提供した。
- 子どもたちが地域社会の中で、心豊かに・健やかに育まれる環境づくりが、時を経て現在の放課後子ども教室に脈々と受け継がれている。
- 放課後子ども教室では、「ただいま」「おかえり」の合図で始まり、宿題、その後縄跳びやフラフープ、コマやけん玉などをしながら過ごし、また、七夕の折り紙教室、クリスマスカード作り、飛行機飛ばし大会、避難訓練、花植え等が恒例の行事になっている。
- 吉田支援員が「お母さん」になったつもりで子どもたちと関わり、楽しく過ごすときもあり、叱る必要があるときには遠慮なく叱っている。また、子どもの様子がいつもと違ったりするときがあるとその様子を保護者の方へ伝えたり、注意しながら見守っている。時には保護者の相談にもものっている。保護者との距離が近い事は子ども教室の利点であり、三者間に信頼が生まれ、子どもはより安全に過ごせ、保護者はより安心して預けられる。そのような放課後子ども教室になればと日々活動している。



発表後の感想等

発表後には、参加者から感想や質問が多く出されました。質問の対応には、分科会司会者を担当していた土佐清水市生涯学習課 弘田 条 課長が、当時の担当者だったこともあり、時折質問に答えながら、会場の参加者の雰囲気は和みました。

参加者からの感想や意見

- 公民館、図書館、体育館などを連携させ子どもたちに様々なことを体験する場所を提供しているのは大変素晴らしいことだ。
- 公民館で放課後子ども教室を行うことは、大変珍しいと思う。
- 地域の方が集まる公民館に子どもたちが通っているのは、子どもの姿や交流ができてよいのではないかとと思う。
- 子どもや保護者が安心、信頼して放課後子ども教室に通わせることができ、取り組み内容や子どもたちを育てる風土があり素晴らしいと思った。

県外から来られた参加者は、興味を持ち自分の地域と重ね合わせながら実践発表を聞いていました。その後のグループ協議でも大変盛り上がり、分科会は有意義な会になったのではないかと思います。

幡多地区文化財保護連絡協議会

総会・研修会～三原村～

平成29年9月8日に三原村農業構造改善センターを会場に総会・研修会が開催されました。この会は、幡多地区の文化財関係者が一堂に会し、情報交換や現地研修を行い、文化財についての認識を深め資質の向上を図ることを目的としています。

「わがふるさと三原村」

講師 矢野 尚義 氏

- 三原村には3500年ほど前に人々が住み着いた跡がある。
- 現段階でもっとも最古の「三原」についての記録は、東京大学にある930年前の書物に「ヤノタロウ」の記載がある。
- 廃藩置県後1889年に三原村が誕生し、12地区からなる組合であった。三原村の生活環境の変化にもふれながら三原村の歴史を語られた。



「柚ノ木城跡、敷地一族の墓」

講師 矢野 尚義 氏

- 柚ノ木城は敷地官兵衛の居城であった。敷地氏は三原郷、敷地郷、川登郷を領する石高6千石の豪族であった。応仁の乱の後、家臣として一条氏に仕えるようになる。
- 中山の尾根に落とし穴と見られる土坑がある。
- 現在は、文化保護委員をはじめ地域の住民の方々が年に数回、草刈作業等を行って史跡の管理に努めている。
- 小学校の史跡めぐり(社会科見学)のコースになっている。
- 敷地一族の菩提寺である興福寺が、柚ノ木城跡の山の麓に建てられている。



敷地一族の墓



柚ノ木城の落とし穴



興福寺

誰にどんな本を贈りますか？

4月23日は「子ども読書の日」です。(4月23日～5月12日までは、「子ども読書週間」です。) 西部教育事務所では、子ども読書の日「大切な人へ本を贈ろう」として啓発活動を行っています。これは、大切な人のことを考えながら本を選び、その「想い」を本に託し、メッセージとして贈るものです。



本を贈った方の感想

23日の「子ども読書の日」に大切な二人の娘に本を贈りました。高校3年生の娘には浅野温子さんの「I love letter」を贈りました。携帯電話のメールやline等でのやり取りが多い娘が、改めて手紙の魅力についても感じるきっかけづくりになればと思い選びました。中学生の娘には夏川草介さんの「本を守ろうとする猫の話」を贈りました。小学生のころは読書をする姿をみかけていましたが、中学生になり日々の忙しさもあってか本を手にとって読む姿を見ることが少なくなっていたので、読書をしていたころの気持ちを少し思い出してくれると嬉しいなと思い、この本を選びました。二人ともすぐに本を開き読んでくれています。読み終わったら感想を聞くのが楽しみです。(二人の娘を持つ母)

近頃、柔軟体操に凝っている妻に、少し前に話題になった体が柔らかくなるストレッチの本を贈りました。家では、贈った本を毎日のように開いてストレッチにいそしむ妻の姿があります。気に入ってもらえたようで、嬉しいです。

(黒潮町在住・40代男性)